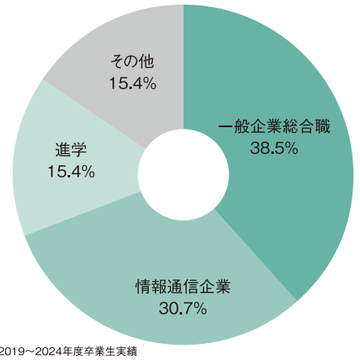
修了後の進路

本研究科修了後の進路は、臨床心理学領域では、精神科病院やクリニック、総合病院をはじめ、学校や教育センター、企業内相談室など多様な場面に拡がっています。また、公務員試験を経て児童相談所や少年鑑別所で働く道もあります。実験・応用・発達心理学領域では、一般企業総合職や情報通信企業等の専門職として活躍しています。

公認心理師・臨床心理士
資格認定試験 合格率
100%
※過去3年間の合格実績

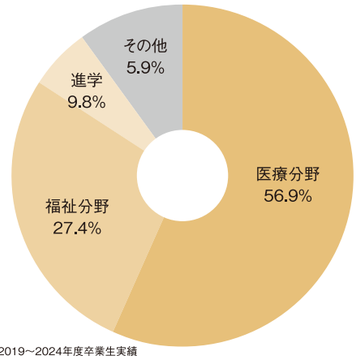
【修了生の進路状況】

実験・応用心理学専攻



※2019～2024年度卒業生実績

臨床・発達心理学専攻



※2019～2024年度卒業生実績

博士後期課程への進学

本研究科には博士後期課程も設置されており、さらに研究を深めることも可能です。学位取得後、多くが大学教員や研究員として活躍しています。その他、臨床・発達心理学専攻では専門知識や技能を活かした医療・福祉・司法・教育領域での専門職、実験・応用心理学専攻では産業カウンセラーやデータサイエンティストなど、多岐にわたる進路があります。

博士課程修了者 Message

独立行政法人国立病院機構　久里浜医療センター

◎臨床・発達心理学専攻 博士課程

古賀 佳樹さん（2023年3月卒）

現在、久里浜医療センターの研究員として、主にギャンブル・アルコール・ゲームなどの依存症に関する全国調査を担当しています。研究成果が国の対策に反映されることもあり、社会に貢献できている手応えを日々感じています。
修士課程在学中は、研究計画の立案からデータ分析、成果発表と議論まで、一連の研究プロセスを繰り返す日々を過ごしていました。そんな中、次第に研究の奥深さに魅了され、「研究を仕事にしたい」という思いが強まり、博士課程への進むことを決意。進学後は、ゲーム依存症をテーマにそのプロセスを明らかにする研究を実施しました。研究過程を通し研究の意義や社会との結びつきを実感できたことは、現在の仕事にもつながる大きな財産となっています。

中京大学 心理学部
大学院 心理学研究科

【お問い合わせ先】
〒466-8666　名古屋市昭和区八事本町101-2
TEL（052）835-7160　FAX（052）835-7144　https://www.chukyo-u.ac.jp/educate/psychol/pg/

中京大学大学院
心理学研究科

Graduate School of Psychology

実験・応用心理学専攻

臨床・発達心理学専攻

挑戦する大学
中京大学
CHUKYO UNIVERSITY

実験・応用と臨床・発達。
2つの視点から、
「こころ」のスペシャリストを目指す。

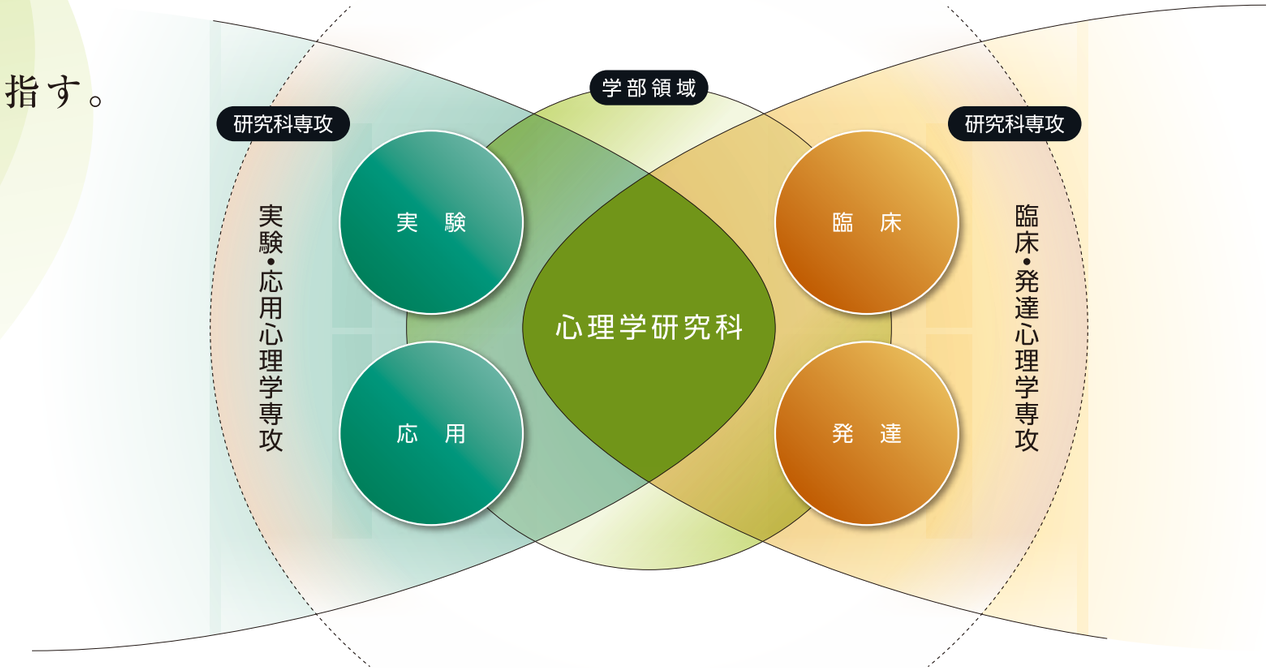
本研究科は、実験・応用心理学と臨床・発達心理学の2専攻から構成され、人間の心と行動について幅広い視点から探究します。基礎となる心理学論や研究法など、専攻を越えた共通科目を重視し、確かな研究力を育てることが特徴です。また、高度な専門性に加えて、広い視野と豊かな人間性を備え、社会の多様な場面で活躍できる人材の育成を目指しています。

実験・応用心理学専攻

本専攻は、心の情報処理と脳の働きを科学的に解明する「実験心理学領域」と、心理学の研究知見の応用による現実問題解決への取り組みを行う「応用心理学領域」の2領域から構成されています。

臨床・発達心理学専攻

本専攻は、人間の様々な適応困難の分析と事例への対処を目指す「臨床心理学領域」と、生涯にわたる人間発達の様態とその機序の解明を目指す「発達心理学領域」の2領域から構成されています。



研究科長挨拶

心理学の専門知識と社会での実践力を育む

中京大学大学院
心理学研究科 研究科長
明翫 光宜

本研究科には2つの専攻があり、実験心理学、応用心理学、臨床心理学、発達心理学の4つの領域で学ぶことができます。それぞれの領域では、専門知識や技能を身につけ、将来さまざまな場で活躍できる力を育んでいます。また、領域や専攻を越えて学ぶ共通の科目もあり、分野の違いを理解しながら協力する大切さも学べます。
大学院では、学部までの学びをさらに専門的に深めるだけでなく、自分の研究や実践が社会の中でどんな意味を持つのかを考える機会にもなります。卒業後の進路は研究や教育、臨床、企業などさまざまです。ここでの学びは、自立した専門家として社会に関わる力を養ってくれるでしょう。皆さんがこの学びの場で充実した日々を送り、心理学を通して新しい発見や挑戦を楽しめることを願っています。

OB・OG Message

SIer/システム設計・開発者

◎実験・応用心理学専攻
長谷川 龍樹さん（2022年3月卒）

心理学で磨いた思考力がシステム開発を支える

音楽が好きだった私は、「音楽が心に与える影響」に関心を持ち、心理学の道へ進みました。修士課程では、同じ単語を繰り返し聞くうちに別の単語に聞こえてくる「単語変形効果」をテーマに、聞こえ方の変化と記憶との関係について実験を重ねました。中京大学心理学部には長い歴史があり、実績ある先生方が多数在籍しています。研究の方向性や論文の内容について、尊敬する先生から丁寧な助言をいただき、専門性を深めることができました。
現在は、SIer（エスアイヤー）として業務用システムの設計・開発に携わっています。大学院で培った「論理的に考え、的確に伝える力」や「情報を正確に読み解く力」は、クライアントやユーザーの思いを形にするうえで大いに役立っています。心理学で養った分析力と探究心が、今の仕事を支える基盤となっています。

OB・OG Message

自動車事故対策機構 勤務

◎実験・応用心理学専攻
川久保 観さん（2025年3月卒）

研究で培った思考を事故防止の現場で活かす

私の所属する機構では、自動車事故に対して「防ぐ・支える・守る」をテーマに活動しています。業務の中には、運転者の特性を調べる適性診断など、心理学の知識を直接活かせる場面が多くあります。仕事をする上で大切にしているのは、何事にも根拠を持って取り組む姿勢。これは、修士課程での実験の日々の中で培われました。
大学院では、自然環境が人に与える心理的効果が、VR（仮想空間）でも同様に得られるかを実験し検証。最終的に論文にまとめ、学会で発表することができました。また、心理統計学のTA（ティーチング・アシスタント）として学部生の指導に携わり、教える立場として関わることで、自身の理解をより深める貴重な経験となりました。これらの経験を通じて得た「根拠に基づいて考え、行動する力」を、今後も事故防止や安全支援の現場で活かしていきたいと考えています。

OB・OG Message

スクールカウンセラー

◎臨床・発達心理学専攻
増田 真子さん（2018年3月卒）

知識と経験を活かし、さらなる成長を目指す

心理学研究科では、心理士として必要な知識と実践力を体系的に学ぶことができました。特に実習での経験を大切にしており、実習先の病院では厳しい現実に直面しながらも、心理支援の重要性とその難しさを実感しました。この経験により、学びへの意欲は一層高まりました。中京大学心理学部は長い歴史を有し、現場で活躍する卒業生によるサポート体制も整っています。そのため、学んだ知識や理論を安心して現場で実践することができました。
現在は中学校のスクールカウンセラーとして勤務し、心の変化が大きい10代の生徒たちと向き合う日々を送っています。生徒の支えとなると同時に、大人として模範となれるよう努めています。今後も心理学研究科で培った知識と経験を活かし、一人でも多くのクライアントに寄り添い、成長を支える心理士として歩んでいきたいと考えています。

OB・OG Message

公務員/スクールカウンセラー/スクールソーシャルワーカー

◎臨床・発達心理学専攻
小野 真喜さん（2008年3月卒）

自分自身の経験を力に、子どもと家庭を支援する

大学では、「ヒトの育ち」に焦点を当てる発達心理学の知見を深めました。在学中、妊娠・結婚・出産を経験したことをきっかけに、子どもの発達やその親の成長に興味を持つようになり、心理学研究科への進学を決意。「婚前妊娠をした女性が結婚・出産を決断するまでのプロセス」をテーマに、自身の体験も踏まえながら研究と臨床を重ねました。当時、研究に前のめりになっていた私に、「もっと力を抜いて、今しかできない子育てを楽しでみたら?」と言ってくださった先生の言葉は今も心に残っています。
現在は、学校や地域でカウンセラー・ソーシャルワーカーとして、子どもや保護者の思いに寄り添いながら支援を行っています。大切にしているのは、だれに対しても尊敬する視点を持つこと。厳しい現場でも、子どもたちの意外な可能性に気づけた時は、本当にやりがいを感じています。